

日本では、台風や梅雨の時期の大雨などにより、毎年さまざまな被害を受けています。その被害には、どのようなものがあるのでしょうか。

毎年、夏から秋にかけて日本にやってくる台風は、各地にさまざまな被害をもたらしています。また、とつぜんの雷や大雨、竜巻による被害も多く発生しています。線状降水帯の発生も多くあり、局所的な大雨による影響が大きく出ています。

●大雨



写真提供：京都市消防局

△雨であふれた川

大雨がふると、川の水があふれて、ていぼうをこえ、道路や建物、田畑などに水が流れこむことがあります。



写真提供：秋田県警

△雨でくずれた土砂

山に大雨がふると、土砂くずれなどにより、家がこわれることがあります。

●局地的大雨



△水がふえる前の川



△水がふえた後の川（水位が約1m30cm上がった）

10分後

写真提供：神戸市

数十分の短時間に、せまいはんいでふる急な大雨のことを局地的大雨といいます。

川の上流が大雨の場合、自分がいる所に雨がふっていなくても、川の水がとつぜんふえることがあります。

●強風



写真提供：朝日新聞社

△風でたおれ、折れ曲がった電柱

強い風がふくと、屋根が飛ばされたり、家がこわされたりすることがあります。

また、電柱や木がたおされることもあります。

●落雷



写真提供：気象庁

△地上に落ちる雷

雷は、周りより高い所に落ちやすいため、グラウンド、屋外プール、海などでは人に落ちることがあります。



雷は、大きな木やかさにも落ちやすいので、木の下で雨宿りするのはいけませんよ。

台風などがもたらすさまざまな被害を知り、自分の身を守れるようになることが大切です。

●大雪



写真提供：山形新聞社

△雪の重みでこわれた家

大雪がふると、雪の重みで建物がこわれたり、自動車や電車が動けなくなったりすることがあります。

●竜巻



写真提供：朝日新聞社

△まちをおそう竜巻

竜巻は、とつぜん起こり、さまざまなものをまき上げながらいどうします。竜巻の通り道では家などがこわされることがあります。